

## 主 文

本件上告を棄却する。

上告費用は上告人の負担とする。

## 理 由

上告代理人池谷信一の上告理由について。

原判決の認定した事実によれば、被上告人の母は（イ）受胎可能の期間中上告人と継続的に情交を結んだ事実があり（ロ）上告人以外の男性と情交関係をもつた形跡はなく（ハ）上告人には、被上告人を「Ｂ」と命名する等、父としての言動があつたというのであり、また原判決が採用したＤの鑑定の結果によれば、ＡＢＯ式、ＭＮ式およびＲｈ－Ｈｒ式血液型鑑定上、上告人と被上告人は親子たりうるし、その可能性が大であるというのであるから、被上告人は上告人の子であると認定した  
原判決の判断は正当であり、論旨引用の大審院判決と矛盾するものではなく、却つて当裁判所の累次の判例（昭和三一年九月一三日第一小法廷判決・民集一〇巻九号一一三五頁、昭和三二年六月二一日第二小法廷判決・民集一一巻六号一一二五頁、昭和三二年一二月三日第三小法廷判決・民集一一巻一三号二〇〇九頁）と一致するものである。その余の論旨は、原審の専権に属する証拠調の範囲限度、証拠の取捨判断に対する非難にすぎないから、すべて採用しえない。

よつて、民訴法四〇一条、九五条、八九条に従い、裁判官全員の一致で、主文のとおり判決する。

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	奥	野	健	一
裁判官	山	田	作	之 助
裁判官	草	鹿	浅	之 介